乾燥減量　2.0%以下（1g，105℃，2時間）
定量法
①　リン　本品約2.0gを0.01gの桁まで量り、その数値を記録し、希塩酸50mLを加え、加温して溶かし、放冷した後、250mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて250mLとし、乾燥ろ紙でろ過する。初めのろ液20mLを除き、次のろ液10mLを全量ピペットを用いて量り、100mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて100mLとする。この溶液10mLを全量ピペットを用いて量り、100mLの全量フラスコに入れ、強酸性であれば、フェノールフタレインを指示薬としてアンモニア試液で中和した後、硝酸数滴を加えて微酸性とし、水を加えて70mLとした後、リン発色試液20mL及び水を標線まで加えて100mLとし、試料溶液とする。別に、リン標準液10mL及び20mLを全量ピペットを用いて量り、それぞれ100mLの全量フラスコに入れ、水を加えて約70mLとした後、リン発色試液20mL及び水を標線まで加えて100mLとし、S_1液及びS_2液とする。試料溶液及びS_2液につき、S_1液を対照液として波長400～420nm付近の極大波長における吸光度A_T及びA_Sを測定する。

$$\text{リン（P）の量（mg）} = 1\ \text{（mg）} + \frac{A_T}{A_S}\ \text{（mg）}$$

②　ナトリウム　本品約2.0gを0.01gの桁まで量り、その数値を記録し、希塩酸50mLを加え、加温して溶かし、放冷した後、250mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて250mLとし、乾燥ろ紙でろ過する。初めのろ液20mLを除き、次のろ液5mLを全量ピペットを用いて量り、500mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて500mLとし、試料溶液とする。別に、ナトリウム標準液20mL、25mL及び30mLを量り、1,000mLの全量フラスコに入れ、それぞれ水を標線まで加えて1,000mLとし、標準液とする。試料溶液及び標準液につき、波長589nmにおける光の強度を炎光分光光度計により測定し、標準液から得た検量線により試料溶液のナトリウム（Na）の量を求める。なお、炎光分光光度計の燃料ガスはプロパンを、助燃ガスは空気を用いる。
(イ)　保存の方法の基準
密閉容器に保存すること。
イ　製剤
(ア)　成分規格
リン酸一水素ナトリウム（乾燥）製造用原体の成分規格を準用する。
(イ)　保存の方法の基準
リン酸一水素ナトリウム（乾燥）製造用原体の保存の方法の基準を準用する。
(102)　リン酸二水素カリウム（乾燥）
ア　製造用原体
(ア)　成分規格
含量　本品は、105℃で4時間乾燥した後、定量するとき、リン酸二水素カリウム（KH_2PO_4）98.0%以上を含む。
物理的・化学的性質
①　本品は、無色の結晶又は白色の結晶性粉末である。
②　本品は、水に溶けやすく、エタノールにほとんど溶けない。
確認試験
①　本品の水溶液（1→20）は、酸性である。
②　本品の水溶液（1→20）は、カリウム塩及びリン酸塩の定性反応を呈する。
純度試験
①　溶状　本品1.0g（0.95～1.04g）に水20mLを加えて溶かすとき、その溶液は、無色で、濁度は僅かに微濁以下でなければならない。
②　pH　本品の水溶液（2.7→100）のpHは、4.2～4.7でなければならない。
③　塩化物　本品1.0g（0.95～1.04g）を量り、塩化物試験法により試料溶液を調製し、0.01mol/L塩酸0.3mLを用いて比較液を調製して塩化物の試験を行うとき、試料溶液の呈する混濁は、比較液の呈する混濁より濃くてはならない（0.01%以下）。
④　硫酸塩　本品1.0g（0.95～1.04g）を量り、硫酸塩試験法により試料溶液を調製し、0.005mol/L硫酸0.4mLを用いて比較液を調製して硫酸塩の試験を行うとき、試料溶液の呈する混濁は、比較液の呈する混濁より濃くてはならない（0.02%以下）。
⑤　重金属　本品0.5g（0.45～0.54g）を量り、重金属試験法第1法により試料溶液を調製し、鉛標準液1.0mLを用いて比較液を調製して重金属の試験を行うとき、試料溶液の呈する色は、比較液の呈する色より濃くてはならない（20ppm以下）。
⑥　ヒ素　本品1.0g（0.95～1.04g）を量り、ヒ素試験法第1法により試料溶液を調製し、装置Aを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、吸収液の色は、標準色より濃くてはならない（2ppm以下）。
乾燥減量　0.5%以下（1g，105℃，4時間）
定量法　本品を105℃で4時間乾燥した後、その約3.0gを0.01gの桁まで量り、その数値を記録し、水30mLを加えて溶かし、塩化ナトリウム5g（4.5～5.4g）を加え、よく振り混ぜて溶かし、約15℃に保ち、1mol/L水酸化ナトリウム溶液で滴定する（指示薬　チモールブルー試液3～4滴）。この場合において、滴定の終点は、溶液の黄色が青色に変わるときとする。同様の方法で空試験を行い補正する。
1mol/L水酸化ナトリウム溶液1mL＝136.1mgKH_2PO_4
(イ)　保存の方法の基準
密閉容器に保存すること。
イ　製剤
(ア)　成分規格
リン酸二水素カリウム（乾燥）製造用原体の成分規格を準用する。
(イ)　保存の方法の基準
リン酸二水素カリウム（乾燥）製造用原体の保存の方法の基準を準用する。
(103)　リン酸二水素ナトリウム（乾燥）
ア　製造用原体
(ア)　成分規格
含量　本品は、乾燥した後、定量するとき、リン酸二水素ナトリウム（NaH_2PO_4）98.0～102.0%を含む。
物理的・化学的性質
①　本品は、白色の粉末又は粒子である。
②　本品は、水に極めて溶けやすく、エタノールにほとんど溶けない。
確認試験
①　本品の水溶液（1→20）は、弱酸性である。
②　本品の水溶液（1→20）は、ナトリウム塩の定性反応の①及び②並びにリン酸塩の定性反応を呈する。
純度試験
①　溶状　本品2.0g（1.95～2.04g）に水20mLを加えて溶かすとき、その溶液は、無色で、濁度は僅かに微濁以下でなければならない。
②　塩化物　本品0.2g（0.15～0.24g）を量り、塩化物試験法により試料溶液を調製し、0.01mol/L塩酸0.6mLを用いて比較液を調製して塩化物の試験を行うとき、試料溶液の呈する混濁は、比較液の呈する混濁より濃くてはならない（0.1%以下）。
③　硫酸塩　本品0.5g（0.45～0.54g）を量り、硫酸塩試験法により試料溶液を調製し、0.005mol/L硫酸0.5mLを用いて比較液を調製して硫酸塩の試験を行うとき、試料溶液の呈する混濁は、比較液の呈する混濁より濃くてはならない（0.048%以下）。